



財自治体国際化協会理事長

木村 陽子

贈る言葉

小学校の校庭には、赤いチューリップが端正に並んでいる。春が来たのだ。私と同時期にクレアに派遣されてきた職員が派遣元自治体にもどり、新たなスタートを切る今年の春は特に感慨深い。

彼らは1年間をクレア東京本部で、あとの2年間をパリ、ロンドン、ニューヨーク、シンガポール、シドニー、北京、ソウルのいずれかの海外事務所で勤務し国際化人材として研鑽を積んできた。クレアで得た豊富な知識や経験を携え、この4月から派遣元自治体の新たな部署で働く。国際化により地域を飛躍させ豊かにする、20年後の活躍が楽しみな青年達である。

とは言っても国際関係は大きな変革期を迎え複雑になるばかりである。「世界の新たな秩序における日本の針路をどうするのか」など国の外交についても議論が活発な中、自治体外交や地域の国際化を進める上で、幾多の困難に直面するかも知れない。そんな彼らに応援の言葉を贈りたい。

それは、「人生は困難なものである」ということである。「人生には問題がいくつも起きる、そして時には複数の問題が同時に、かつ連続して起きることもある」。だから、問題があることを異常ととらえるのは正しくないし、それから逃げることも潜在的なストレスを増すだけである。むしろ、人生の訓練ととらえ、きちんとした対処を学び、備え、実行しなければならない。問題が爆発しないように注意しながら、それを乗り越える方法を辛抱強く探し出し、少しずつでも乗り越えていかなければならない。人生観や賢者の知恵、信仰などはもちろんのこと、人との信頼関係が事態打開に助けとなる。

国際関係も人生と同じであると思ふ。「国際関係も困難なものであり、問題は絶えず起きる」。歴史を振り返ると、困難な時代の方がむしろ多かったのではないだろうか。問題が起きても、これを異常ととらえ極端に趨^{はし}るのではなく、困難な課題をいくつも抱えながらも、それに辛抱強く対処することが必要である。

クレアの基本は草の根交流であり、深い信頼関係や友情で結びついたネットワークを内外の地域に築き、共存共栄を図り、国際平和に貢献することを目指している。クレアの卒業生はそこに軸足を置きながら、外交のあり方、国際社会における自らの地域のあり方を絶えず考えて欲しいと思っている。